

古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

おはようございます。

それでは、通告書に従いまして、これより一般質問を始めさせていただきます。

1、「コロナ第7波」の対応と問題点について。

3年ぶりの行動規制なき夏は、夏休み・お盆・旅行振興政策なども相まって人流が増大し、国内外を問わず、各地の観光地や商業施設はにぎわいを取り戻しております。しかし、その代償は大きく新型コロナウイルス感染者数は、全国や新潟県、糸魚川市においても過去最多を大幅に更新し、死亡者も過去最多となりました。

これは「根拠なき見切り発車」と言え、結果、医療の逼迫や感染症警戒による外出控えなどにより市民生活、企業活動、夜の飲食店など深刻な状況となっております。さらに「B A. 5対策強化宣言」が発せられましたが、これは「補償なき行動規制」であり、見殺し政策と言えるものである。これらを踏まえて、コロナ禍対応について、以下についてお伺いします。

- (1) 行動規制は行わないということは、今回の拡大は予想できたのか。
- (2) コロナ禍における被害をどのように捉えているのか。また、災害と捉えているのか。
- (3) コロナ禍、猛暑、天候不順、物価の急上昇など経済状況をどのように捉えているのか。また、市民生活への影響をどのように捉えているのか。
- (4) 今後の対応について、困窮する医療福祉・教育・サービス業など、どのように対応するのか。被害者救済をどのようにするのか。
- (5) 「B A. 5対策強化宣言」は継続するのか。その影響はどうか。
- (6) 全数把握か定点把握か。その意味するものは。メリット・デメリットはどうか。

2、人口問題と少子化について。

人口4万93人、これは8月1日現在、9月1日現在では4万65人と4万人割れも秒読み段階となり、抜本的な対応に迫られております。人口問題は、市町村合併に至る大いなる課題と言え、最大の懸案事項であるとも言えます。そこで、以下についてお伺いします。

- (1) 子どもの出生数の減少をどのように捉えているのか。
- (2) 人口問題を総合的に捉えて、これまで個々に取り組んできた出会いから結婚、出産、子育て、進学までを一連のプランニングとし、安心して生み育てるプランを策定すべきではないか。
- (3) 安心して定着し、暮らすことのできる医療・職場・住居の「医・職・住」の充実、安定供給できる環境づくりをどう進めていくのか。
- (4) 子育て支援センターの概要と、この施設が優先的に必要なのかどうか。
- (5) 「おめでた祝い金」これは出産準備金であります。や「出産祝い金」、「マイホーム補助金」、「地元就職祝い金」など、魅力ある制度を拡充・導入すべきと思うがどうか。
- (6) これらを一元化した、生まれてから他界するまでの総合計画「イトヨ・プラン」を策定す

べきと考えますが、いかがか。

(7) 未来を支える子供たちを育成するために重要な教育。しかし荒廃する教育現場。どのように現状を捉え、どう対処するのかお聞かせください。

(8) 市勢発展・交流人口の増大へ、「十字型経済圏」の確立、「塩の道経済圏」、「親不知ヒスイロード」、「サンセットシーサイドロード」、「日本海ゲートウェイ・ポート」など、それぞれの方向ごとに推進し、近隣自治体とウイン・ウインの関係を構築すべきではないのか。

3、新たに発覚した県単価漏えいについて。

官製談合や最低価格失格業者との違法契約、その中で発覚した県単価漏えい。そしてまた、新たに発覚した県単価漏えい。終わりなき不正と不祥事の数々に怒りを覚えるものであります。

以下についてお答えください。

(1) 新たに判明した県単価漏えい。なぜ気づかなかったのか。

(2) 駅北広場キターレの設計変更はなぜ起こったのか。

(3) 過去の教訓が全く生かされていないのではないのか。

4、権現荘指定管理について。

権現荘指定管理者の更新時期を迎え、どのように対応するのかお伺いします。

(1) 指定管理に至った経緯はどうか。

(2) 4億円もの経費をかけ、リニューアルし、民間移譲を目指したものの、突然の市長判断により株式会社能生町観光物産センターに特命随意契約したのはなぜか。

(3) 指定管理者の条件はどのように変更されたか。

(4) 経営課題は何か。

5、政治と宗教。故安倍晋三元首相と行政の関わり合いについて。

選挙の応援演説中、凶弾に倒れた安倍元首相。殺害された政治家は過去には枚挙にいとまはありませんが、令和のこの時代に起こるとは、信じられないとともに心より怒りを覚えるものであります。

一方、この事件を契機に政治と宗教の関わり合いが取り沙汰され、自由民主党の国会議員をはじめ、あらゆる議員、自治体などに関係性の有無を明らかにすることが求められております。

そこで、以下についてお伺いします。

(1) 糸魚川市として、ピースロードなど世界平和統一家庭連合（旧統一教会）との関わり合いはないのか、市長個人としてどうなのか。

(2) 安倍元首相の記帳所はなぜ行政が設置したのか。また、前例はあるのかどうか。

(3) 国葬にはどういうふうに対応するのか、お聞かせいただきたいと思います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、今回の感染拡大は国の方針として感染対策をした上で、行動制限を行わないということから、ある程度、感染が増えるものと捉えております。

2 点目につきましては、感染者の健康被害のみならず、社会経済活動に大きな影響を与えたと捉えております。

3 点目につきましては、コロナ禍に次ぐ物価高騰等の影響により、経済回復は、さらに緩やかになるものと捉えております。

また、市民生活につきましても、行動制限がないとはいえ、少なからず影響はあるものと考えております。

4 点目につきましては、今後引き続き、市民に感染対策を周知するとともに、医療・福祉サービスが確保できるよう努めてまいります。

また、事業継続のための支援や生活者支援のため、独自の給付や本定例会に補正予算を計上し、対応してまいります。

5 点目につきましては、B A. 5 対策強化宣言は、県が 8 月 3 0 日の対策本部会議で、9 月 3 0 日まで延長を決めており、市民への心理的影響は、少なからずともあるものと捉えております。

6 点目につきましては、全数把握は感染者全体を把握できますが、医療機関等への負担が増し、一方、定点把握は、医療機関等の負担は軽減されますが、感染者の把握が困難になるものと考えております。

2 番目の 1 点目につきましては、将来地域の担い手が不足するなど、市の最大の課題と捉えております。

2 点目と 3 点目につきましては、結婚を希望する男女への支援とともに、安心して子供を産み育てることができ、若者が生き生きと活躍できる環境づくりに向けて、庁内連携で取り組んでまいります。

4 点目につきましては、基本計画の策定作業を進める中で、屋内遊戯施設、子育て支援センター、一時預かりの 3 つの子育て機能を持つ施設を検討しております。

屋内遊戯施設については、子育て世帯から要望を多くいただいております。子育て支援センターについては、現在、やまのい保育園内にある発達支援センターめだか園が手狭になるという喫緊の課題の対応であります。

5 点目につきましては、事業効果や継続性を考慮しながら、行政サービスが展開できるよう引き続き、調査研究してまいります。

6 点目につきましては、今年度からスタートした総合計画を着実に進めることで、人口減少対策を講じてまいります。

7 点目につきましては、学校と市教育委員会がしっかり情報共有し、必要に応じて、上越教育事務所や関係機関とともに連携し、早期対応に努めております。

8 点目につきましては、近隣自治体と連携し、そして、それぞれの地域が持つポテンシャルや交通ネットワーク、テーマごとの経済圏の結びつきを相互に活用しながら、地域活性化及び交流人口拡大に取り組んでまいります。

3 点目の 1 点目につきましては、工事監理業務における確認を失念したものでございます。

2点目につきましては、実施計画業務の中で予算を超過する見込みとなり、整備内容を変更いたしましたものであります。

3点目につきましては、今後このようなことがないように努めてまいります。

4番目の1点目と2点目につきましては、平成27年の施設改修後、早期に民間運営に移行するため、観光事業の実績がある能生町観光物産センターを公募によらない特命随意契約で指定管理者といたしたものであります。

3点目につきましては、応募資格を緩和し、応募しやすくしたことに加え、宿泊等の部門を自由提案といたしております。

4点目につきましては、光熱費等の固定費の削減が課題と考えております。

5番目の1点目につきましては、糸魚川市及び私個人として、世界平和統一家庭連合とは、現在確認できる範囲では、関わっておりません。

2点目につきましては、駅北大火の際に現職の内閣総理大臣として早期に本市を訪れ、被災者を励ましていただき、また、復旧・復興に多大なるご尽力をいただいたことに対し、市民の弔意を受ける場所が必要と判断いたしましたし、私市長が就任してから初めて設置いたしましたものであります。

3点目につきましては、適切に判断してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これより、第2回目の一般質問に入らせていただきたいと思います。とりあえず昨日は、日本海クラシックカーレビュー、大変ご多忙の中、市長をはじめ副市長、皆さんのご協力を賜りまして誠にありがとうございます。第1回目から携わりまして、当日はまた、市内パレードのMCをさせていただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

さて、ここまでは昨日のイベントMCでございますが、ここからは市会議員、古畑浩一ということで、大変厳しいことも言うかもしれませんが、ご容赦いただきたいと思います。

それでは、順番を変えまして、5番、政治と宗教につきましては、行政との関わり合いについてお聞きしたいと思います。

この大きな5番で政治と宗教というふうに言いましたが、この場合の宗教というのは、大きく捉えていろいろな宗教がありますし、その方に誤解のないように、ここは旧統一教会との関わりというふうにさせていただきます。

さて、今のところ旧統一教会とは関わり合いはない。今のところって何ですか。これからじゃないよね。もう終わってることだと思いますが、はっきりとないなら、ないと言っていたと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

調査といいましても、私の知る範囲といいましようか、行政の知る範囲の中においては無いということをございまして、実際、本当に細かく調査というのは、まだ行っておりません。そのことから、現在の中でお答えさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これはもう2つに分けますよね。

まず、行政としての関わり合いははっきりとしてるでしょう、こっちのほうは。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

おはようございます。

市長担当部局といたしまして、お答えさせていただきます。

市内で実施するイベント、講演会等に対して、市に講演を求められたものということで、平成25年度まで確認してみましたけれども、申請者としてそのような名称は見当たらなかったという確認をさせていただいております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

糸魚川市としては、イベントも含めて旧統一教会とは関わり合いがないということよろしいですか。そこはちゃんと調べたんだね。

ということは、現時点で分からないということは、市長個人のことですね。何で市長個人は分からないですか。

隣、上越市でも大変な関わり合いを求めている、大騒ぎになってます。隣の富山県では、富山市を含めて県知事、市長、それぞれ市会議員も含めて、やはり関わり合いというのは大きくあるようですね。

そこで心配なのは、ちなみに私はございません。一切ございません。

ちなみに心配になるのは、市長との関わりですね。米田市長は、分からないというのはどういうことなんですか。例えば政治的に関わってきたとか、そういうことなんですか。はっきりとお答えください。そしてまた、今現在分からないとしたら、いつになったら分かるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

誠に申し訳ございません。私の関わりというのは、私を支援しておる方が、もしかしたらそういったことに関わっておられる方もおられるかもしれないかもしれないものですから、そのようなお答えをさせていただきました。私個人は、一切そういったことには関わってございません。

ただ、そういったことで、少し完全にというのはなかなか私も、支援をされる方々にお聞きしたこと、確認するという行為は行っておりませんので、その辺をお答えさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

選挙の応援をしてくれるのは、例えばキリスト教だとか浄土真宗だとか、何を信じてやられても私は問題ないと思います。これを信教の自由といいます。個人の宗教観でありますとか、またそういったものに関しては、縛りをしないと。だから、応援してくれた人の端から端まで全部調べると言ってるのではないです。だから、応援する代わりに政治的な何かのニュアンスがあったとか、そういったことですよね。政治家を宗教の皆さんが応援するというのは、そういうことです。そういうことがなかったかということです。

市長、これははっきり答えたほうがいいですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までの中においては、そういうことは一切ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

後になって出てこないようにね、関係はないとはっきりと断言でよろしいですね。

そこで、次に、安倍元首相の記帳所は、なぜ行政が設置したのですか。ちょっとお聞きしたいと思えますけど、これは駅北キターレでやったんですけど、経費というのは幾らかかっているのですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

設置にかかる経費ということで、消耗品と生花、それから土・日・祝日とありまして、その日の

その分の人件費を含めまして、3万4,041円という計算でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

会場費はどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

会場費につきましては、行政利用ということで減免という形で処理しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これ行政業務なんですか。私、30年間やってきて、大物と言われる政治家の方とか糸魚川にゆかりのある方、政治家にかかわらず亡くなったことがあります。

しかし、行政でこういったことをやった記憶は、一切ございません。これは行政でやってもいいんですか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

おはようございます。

では、私のほうからお答えいたしたいと思います。

市長答弁とちょっと繰り返しになると思いますが、大火のときに現職の内閣総理大臣として、早期に当市を訪れていただきまして、被災者を励ましていただいたと、そういったところのご尽力いただいたということで、今回やったものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この大火の恩というのは、大変重要なもんだと思います。私もちゃんとやるべきだと思います。

ただ、自由民主党であるとか、大火で燃えた地元区の皆さんとか、商店街の皆さん、また有志の方々に、やっぱり悲運の死を遂げたことに対する痛みを少しでも伝えたいというならいい。けど何で行政がやったんですか。

はっきり言うけど、こういうのは前例になるんです、行政の場合はね。いかなる理由があろうと、それはちゃんと前例になっていくんです。実際、私のほうへ市民からも、そういった記帳所みたいなのはやらないんですか、やるべきだという声がありましたけど、そういったものは一切関わってはいけないことになっておりますので、そういうことは行政はできませんとお答えしました。それらは有志の皆さんでぜひ関係団体でやっていただきたいと断りました。

しかし、糸魚川市はやった。近隣の、全国的に見ても、そんなに数多くないです。なぜ糸魚川市、米田市長、また行政、税金を使ってまでそこでやらなくてはいけなかったのか。

また、記帳所にして、キターレを使ったということですね。これはどうしてなのか、納得がいかないわけですから、これは明確に説明をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私のところにも、ぜひやってほしいという市民の声が寄せられたものでございますし、そういう中で、私が判断して設置させていただきました。そして、やはり大火という、お礼という意味合いもありましたので、被災したキターレでさせていただきました。

私といたしましては、やはりそういった頂いたご恩については、当然、被災者の皆様方もそうでございますし、行政としても非常に、被災者再建支援法という形を取っていただいたという、非常にいまだかつてない対応をいただいたという受け止め方をした中で、そういう対応をさせてもらいました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

凶弾で亡くなられたあのときを考えれば、早急なる対応をしていかななくてはなりませんね。その気持ちは十分理解します。

しかし、糸魚川市のトップ、市長としては、少し周りに相談するなり、また受皿となる団体をやっぱり要求すべきではないでしょうかね。

米田市長は、特に自民党には傾倒してます。例えば自分の後援会長が中村県会議員であったり、中村県会議員の後援会長が米田市長であったり、自民党ばかり見てるんじゃないですか。いろんな市民には、多様な支持層があります。これらを踏まえて検討すべきではなかったでしょうか。

安倍元首相につきましては、大変尽力をいただいたことは、私もよく知っておりますし、だからこそ、その死を汚したくないという気がするんですね。汚すというのは変な言い方ですね。傷をつけてない。やっぱりそこに参列した人、またそういうことをやったことが市民全体から支持されるようにすべきではなかったのかと思います。その辺に関しまして、配慮が足りなかったのではないかと思います。市長、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういう、またご指摘いただくということは、またあると思っております。本当に市民全員にそういったお声かけをした中であるべきではなかったのかというご指摘については、私もそれは拒むものやなし、また、嫌なものでございませぬが、しかし、私といたしましては、ある程度そういったことに対しては、何らかの形で対応したかったという実情でございまして、その辺は非常に微妙な捉え方だと思っております。

そしてまた、私は決して、今やはり一番行政で必要なのは、国の施策であつたり国の考え方だつたりということ、県政も同じなわけでございますが、時としては、やはりその政権に対しては、しっかりとした対応を進めていきたいという形で取らせてもらってますが、民主党政権のときもそうさせていただきます。非常にそういった意味では、私は自分自身、首長として分け隔てしてるという気持ちはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

市長というのは、糸魚川市みんなの市長です。自民党の党首じゃないですね。

また、こうした凶弾に倒れたことによって、民主主義に対する冒瀆だとか、私もそう思います。けどやっぱりみんなの市長として、配慮ある行動をやっぱりやってほしかった。つくづく思う。素直に故人をしのぶことができたら、なおさらだと思います。そして、またこれが前例になるということ。だから、行政のトップというのは、それだけ重荷がたくさんあるということです。

同様の理由で、今度は国葬へどうしますか。これはやっぱり凶弾で倒れたときの世論と、今現在27日が国葬の日ですけど、そこに迫ってくるに従って、世論が大分逆転しましたよね。国葬すべきじゃないというのが国民の半分を超えてきました。糸魚川市、また糸魚川市長としたら、この国葬に対しては、例えば出席するのか、しないのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今どうするのかというご質問に対しましては、今の時点では、具体的などという形で進められていくかというのは具体的にお示しされておきませんので、私といたしましては、今のところでは考慮といひましようか、分からないといひましようか、そういったところでございまして、行くも行かないも決定してはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

糸魚川で記帳所をつくったという答弁を聞くとね、老婆心ながら、米田市長なら国葬に出席するんじゃないかと。これも老婆心だと思ってね、聞いてほしいと思いますが、当初2.5億円とってたのが、その10倍にも20倍にもなる金額、最終的に70億円超えるんじゃないかと、警護費だとか、要人の滞在費なんか含めていくと。だから安くたって高く請求、国税を使うということになれば国民の反発は必至であります。

これはまだ出席したわけではないですが、ぜひ私の言葉を頭に入れて、慎重なる行動、万人の支持を得るように判断をしていただきたいと思います。最終的な判断は、市長に任せますが、やっぱりそこで批判のないようにしていただきたいと思います。

私も安倍さんの死は、安倍元総理の死は静かに見送っていきたいなと思います。変に英雄視する必要もないんだろうと思います。彼の偉大さは、みんな国民一人一人知ってますからね、それを殊さら、何ていいんでしょうか、持ち上げたり何だりする必要は、私はないんじゃないかなと思います。やるなら本当にしめやかにやってほしいと思います。

税金の問題もちゃんと国会というものが理解して、執行するものだと私は思ってます。一内閣だけで決める問題じゃあないでしょうね。そのこと自体が民主主義を冒瀆してるんじゃないでしょうか。これもよく判断を、市長の判断でしていただきたいと思います。

それでは、この問題を終わらして、権現荘の指定管理に入らせていただきたいと思います。

この指定管理に至った経緯というのは、一体何なのか。民間の血を導入させるということと、やっぱりこれ以上やっても赤字が増大するということも含めて、民間に無償提供をして、要するに糸魚川市から一切の支出をなくせばどうかということの議会側の要求に対して、行政のほうで指定管理に踏み切ったということですね。だけど当初、指定管理者は、民間に広く公募するという考え方で、説明会も予定してましたよね。それをやめてまで、なぜ特命の指定管理、特命随意指定をやったんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

おはようございます。

お答えいたします。

まず、指定管理に至った経過でございますが、平成26年、27年に大きなリニューアル工事を行いまして、当初、28年、29年を直営で行い、30年から指定管理に移行する予定でございましたが、リニューアル効果を早期に生かしたいということから、1年前倒しして、29年度から指定管理に至ったものでございます。

また、物産センターになった理由について、ご質問ありましたが、そちらにつきましては、説明に来られた会社は確におられまして、そちらの方は指定管理料があるというふうに思われていたというふうに聞いておりますので、そういったところから、早期に指定管理に移行するには、地域振興、観光等にたけている能生町観光物産センターに指定管理を特命随意契約により、行ったもの

でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

高野所長は、懇切丁寧によく調べられてきたと思いますが、当時いませんでしたね。変なことで、何だろう、額面上でいろいろ話さないように。そのときの権現荘の話が進んできた、検討を重ねたその相手方は、もはや市長しかいません。これは市長が答えるべきですね。

当時リニューアルには反対もありました。民間にやるんなら、そのリニューアル費、どういうふうに改修するかも含めて、民間の皆さんに決めていただければどうかと。けど、糸魚川市は、そのリニューアルを自分たちでやるということになった。そして、指定管理にする場合には、絶対黒字になる施設、年間2,000万円もうかると言いましたんでね。収入や収益があると言いました。これ何を根拠にして言ってるんですか。確かに糸魚川市から指定管理に移行するときは、わずかな黒字になりました。あれだけ無理だよって言ってるのに、駄目だよって言ってるのに、新たな第三セクターはつくりませんが、今ある第三セクターに運営を任せる。そう言ったのは、米田市長、あなたですね。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

権現荘につきましては、いろんな意見を頂いております。そういう中で、やはり一定の1つ経過、経年経過という形の中においては、やはり動線の悪さとかいろいろご指摘を頂いて、そういった調査を、専門のコンサルに調査をさせていただいた結果、やはりそういったリニューアルということが必要ということをご指摘いただきました。

そういう中で、やはり徐々に赤字になってきておる現状を回復しなくちゃいけないという課題の中で、議会からもご指摘いただきました。そういう中で、やはり指定管理にしていこうということで方向性を決めさせていただいて、お示ししました。そして今言ったように、なぜリニューアルしたかという中においては、やはりそういった指定管理というところになってきますと、どういう形でやればいいのかというのは、なかなか非常にいろんな考え方ができるわけでございますので、しかしそういった課題を解決し、そして、まずは直営で同じようなやり方の中で黒字化になったときに指定管理に出したほうが、皆さんが指定管理に対して受けていただけるのではないかとということで、2年の経過を見て進めていこうという形にさせていただきました。

しかし、今、古畑議員もおっしゃったように、1年で確かに目標の2,000万にはなりません黒字になったわけでございますので、だとしたら、ご指摘いただいているように指定管理に1年でも早くしたほうがいいのではないかとということで、指定管理に1年早く前倒しでさせていただきました。

じゃあなぜ2,000万にならなかったのかというところは、やはりもくろみというものは、や

はりいろいろあるわけでございまして、なかなか計画どおりいかないのも、そういった誘客商売というのは非常に、かなりのいろいろな変動によって起きる可能性があるわけでありますので、なかなかそういった目標どおりはいかなかったかと思っておりますが、しかし、黒字化は黒字化という形の中で、また皆様方のご指摘の方向で決断させていただいたのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

基本的には、能生町観光物産センター、いわゆるマリンドリームは、第三セクターであって、基本的には糸魚川市が50%、言わば糸魚川市民が50%の大株主ということですね。権現荘を受けるとか、受けないかについては、マリンドリームの株主総会においても大いに紛糾したそうです、その音源も残ってますが。その責任を誰が取るかといったときに、織田副市長、当時の副市長は、権現荘は一切赤字は補填しません。しかし、マリンドリームは、50%が市の株、見殺しには絶対しませんので大丈夫ですと言った。

その結果、どうですか、権現荘の歴代でいって黒字になったことはありますか。ここまでの6年間、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

これまで、今年を抜きますと5年間、指定管理により運営しておりますが、今のご質問にお答えするとすれば、黒字になったことはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

当時のマリンドリームの社長は、米田市長、あなたですね。黒字にするからやるという、だけど黒字になったことはない。あったとしたらコロナのリスク分担により赤字を補填してもらったことによって、プラマイゼロというのが1回ありましたね。この経営責任はあなたです、米田市長。会社の社長が、この新事業をやるから、絶対もうかるからやりたいねとって、その責任をどう取るつもりですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

権現荘につきましては、先ほど申し上げましたように、直営のときに黒字化という状況がありま

した。そして、指定管理者の能生町観光物産センターに指定管理になって以降、黒字になった、黒字化にならない責任は私だという、直接はやはり株式会社能生町観光物産センターでございますので、法人の責任であろうかと思っております。その最大出資者は、糸魚川市であります。そういったことで、私も責任はあるかと言われれば、あると答えますが、しかし最大の責任は、株式会社能生町観光物産センターであるわけです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

最大の責任は、株式会社能生町観光物産センター、もう私、社長じゃないから経営が悪かったんじゃないですかということですか。では、現社長の池亀さんが悪いということでしょうか。それともセンター長の清水さんが悪いということでしょうか。そのための指導は、ずっとやってきたんじゃないですか、糸魚川市の第三セクターとして。

そこで、ふと気になるんですけど、第三セクターというのは、ほかに事業やっていいんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

では、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

第三セクターも会社でございますので、定款というのがあります。その定款の変更をかけて、新たなものをやれば、企業としては可能だというふうに私は考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

目的を持ってやる、第一セクターが行政ですね。第二セクターが民間です。行政がやることに対して、民間の知恵を与えるというのは、この、誕生するのが第三セクター、第三ということになります。第三セクター会社には、やっぱり縛りがありまして、その事業を遂行するためにできた会社だと。今回は、総会も通ってるし市議会のほうも通ってますから、基本的には問題ない。

ただ、やっぱりそこは、本来の目的と違う事業をやらせたということになるね。でだ、能生町観光物産センターの責任だと言うけど、ここの社長は、米田さんあなたですよ。そして、糸魚川市長は、米田さんあなたですよ。何回も市が補助を出している団体の会社の社長はするべきじゃないって言ったじゃないですか、合併のときから。だけど、あなたはやめなかったんじゃないですか。何で私の言うこと聞かないんですか。今日こうなることは、あのときもう言ってあったはずだ。知らなかったとは言いませんよ。だからやめときなさいって言ってる。

しかもだ、糸魚川市が直営でやってるときは、小林元支配人の横領事件がありましたよね。基本的には、その放漫経営だとか、また自分が飲んだ酒だとか食品も全て経費で落としていた。これを調べるために私たち議員は、そこのスーパーの伝票まで行って、全部調べてる。警察に告発して、

ようやくその実態が出た。けど糸魚川市は何やりましたか。それを追及しないで迷惑金たる示談金を受け止めて、その事件がなかったことにしましたよね。

いいですか、物事というのは白と黒ははっきりつけて、そして次のところに行かないと、負の遺産をずっと背負うことになるというのは、ずっと言ってきたじゃないですか。その辺の自覚はありますか。今回のこの責任は、経営責任並びに市長の経営判断の責任であります。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

何度もお答えいたすようでございますが、やはり能生町観光物産センターへの最高責任者は、株式会社能生町観光物産センターの取締役社長でございますし、私は、糸魚川市の市長として、最大出資者の糸魚川市の市長でございます。ですから最大の責任は、株式会社能生町観光物産センターであり、私といたしましては、最大出資者の糸魚川市での責任だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

最大出資者は糸魚川市ですが、いわゆる糸魚川市民であります。糸魚川市民が悪いて言うんですか。議会としては、これをやっては駄目だというのは、あれは大事にする、自民党系の保守系の議員がそれでいいって賛成したんじゃないですか。

それから、責任が権現荘にある、経営責任はそっちにあるんだというのが、井川副市長、あなた権現荘の役員ですよ。この責任をどう取るんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

権現荘につきましては、現状が赤字ということで、コロナ禍ということもありますけども、市からの指定管理料を出しても、さらに会社のほうでは赤字という形になっています。この部分については、やはり課題があるというふうに私も捉えておりますし、そういったことを踏まえて、今回は新たな条件を緩和して、また新しい体制に移行したいということで、動かさせていただいておるというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

新たな会社に移行したいということは、株式会社能生町観光物産センターマリンドリームは、指定管理者から下りるといえることですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

公募の条件を緩和して、今募集をしているということで、能生町観光物産センターがここに応募するか、しないかというのは、まだ決定しているものではございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

能生町観光物産センターが、権現荘を運営することによって、大体どのぐらいの赤字になったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答え申し上げます。

昨年度の結果で申しますと、リスク分担による補填等を抜きましても、税抜きで2,400万円を超える金額になっているかと思えます。

○17番（古畑浩一君）

トータル2,400万。

○能生事務所長（高野一夫君）

トータル2,400万を超える金額になっております。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

休憩時間を10分間とし、再開を11時といたします。

〈午前10時48分 休憩〉

〈午前11時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

大変失礼しました。

過去5年間の指定管理における権現荘の赤字の合計額は、約5,860万円になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

私が聞いている数字よりも全然少ないですけどね。例えば5,600万円でもそう、ただ、この赤字損失の責任というのは、やっぱり経営責任として問われるべきだと思います。この件については、井川さん、あなた役員ですね。これどうやって責任取るんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

コロナ禍とはいえ、会社そのものの赤字、また市からの補填もある中でということ、本当に残念な結果であります。これについては、私、責任ないとは申し上げませんが、本当に残念だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

残念で終われば、こんなに経営というのは楽なことないね。やっぱり数字に縛られて、その結果責任を問われるのが、経営、商業というものです。ほかの会社でも全部そうです。やっぱりシビアなものがあり、厳しいものがあります。ましてや指定管理になるとときには、黒字になると約束したんでしょう。1回も黒字がないなんて、それを何、自分の後継になった経営の社長が悪いって言うんですか。それはあまりにもおかしいんじゃないですか。

それから、この経費が赤字になるにもかかわらず、センター長あたりが月給60万円ももらっているというのは本当ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

以前の議会答弁の中で、そのようにお答えしているというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

市民の血税を使って、そういう会社を立ち上げて、その会社が赤字なのに月60万ももらって何やってるんですか。普通の商売というのは、従業員を守るため、会社を守るため、企業のトップというのは自分の身を削って、いわゆるただ働きをしてまで会社を残そうとしている。これ見直したんですか、人件費については。それとも、これは赤字になっても市がどうかしてくれるということで、全く手つかずなんですか。しかもだ、こないだ説明会では、権現荘の説明会ではマリンドリームが来て、指定管理2,000万円もらわないと厳しいって言ったらしいじゃないですか。これはどういうふうに考えてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

報酬ですとか賃金については、この5年間で一部役員等では減額されておりますが、それ以外につきましては、現状を維持させていただいているという現実があります。

また、今ほどの発言につきましては、今はこれから応募ということでございますので、明確な回答は避けさせていただきたいと思っております。

○17番（古畑浩一君）

聞こえない、最後、はっきり。

○能生事務所長（高野一夫君）

最後は、説明会での発言につきましては、現在、質疑等の回答の準備は14日までに回答することとしておりますので、それまで明確な回答は避けさせていただきたいというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

説明会で指定管理料を払いませんではっきり言ったらしいから、もらえとは思ってないだろうと思います。

それでは、その人件費の問題、こういうのを会社として見直そうと思ってるんですか。さっき池亀社長が全て悪いんだ、全ての責任だみたいに市長が言いましたけど、月給60万円ももらってる人間の責任じゃないですか。株式会社能生町観光物産センターと権現荘を、それぞれやるから月給が60万円なんて、市長並みじゃないですか。市長よりちょっと少ないですかね、副市長並みじゃないですか。それだけに見合った分だけの働きはあるんですか。経営責任というなら、その社長よりもそっちのほうにあるんじゃないですか、センター長ですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずもって、今ご質問の中でご指摘されましたが、私は、池亀社長全て一人の責任ということではございません。要するに株式会社能生町観光物産センターの責任であり、その最高責任者は、取締役社長ということで申し上げました。そういったことで、社長一人の責任と私はお答えしておりませんので、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

池亀社長が就任するときだって、社長になってくれて頼んだのは、市長ですね。さらに、センター長を指名したのは、あなたですね。いわゆる、あなたが全部決めてきたんじゃないですか。この場に及んで人に責任を押しつけようというその考え方が、私はおかしいと思う。

もう時間がなくなってきましたけど、その条件経営の、指定管理についての条件変更の中で、このリスク分担についてはどのように言ってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

今回新しい募集については、先ほど古畑議員がおっしゃったとおり、指定管理料はお支払いしない。赤字補填もしないという契約は変わっておりません。

リスク分担につきましては、市統一のリスク分担表がございますので、そちらのほうを採用させていただいております。その中には新型コロナ等の感染症による影響が大きいものというものであれば、リスク分担を協議するというような内容になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、その条件の中においては、固定資産税、それから家賃だとか、そして修繕費、大規模修繕費だとか、そういったことについてはどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

税については、消費税等がありますけども、それ以外の固定資産税等の負担は求めておりません。

また、ほかには今おっしゃったのはそうですね、修繕費につきましては、10万円を超えるものにつきましては、市で修繕するということの約束事になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

いいですか、市でやるということは、市民の税金でやるんですよ。誰が固定資産税もなく、家賃もなく、償還金、いわゆる4億円にも、全部で30億円でしたかね、今まで権現荘にかかってきた経費は。一銭も払わなくていいんですよ。それで赤字だというならもう、経営者だったら信じられない数字じゃないですか。その経営責任も問わず、ここまでやってきて、結局五千何百万円も株式会社能生町観光物産センターから持ち出してしまっている。いろんな意味で、しかも人件費の見直しもやらない。大きな問題じゃないですか。

それから、今回は、今年はコロナによる、これは災害ですか、リスク分担やるんですか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

コロナに関するリスク分担につきましては、これまで休業要請ですとか、東京、大阪等からの宿泊の受入れをお断りするですとか、お休みしていただくですとか、そういう条件を示しておりました。そういったことが起こっておりましたので、リスク分担ということで判断させていただいております。

ただ、この先どのようにコロナ患者の推移が変わるか分かりませんので、その状況によっては、また協議がくれば協議をさせていただきたいと思いますが、今のところ、協議書は上がっていない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

確かに時間がもうなくなってきましたんで、もうしょうがないですけど、この9月議会は、常任委員会とは別に決算特別委員会がある。そのときにも、またいろいろお話を聞かせていただきたいと思います。

コロナにおける災害補填、いわゆるリスク分担については、官と民の差をつけないように。災害認定するんであったら、リスク分担をするんであったら、民間の市民に対する、業者に対してもしっかりと補償するように。みんな見殺し行政だと言ってます。しかも今回が拡大するのを百も承知で、行動の規制を行わないと言っておきながら、全く責任を取らない。過去最大じゃないですか。新潟県で3,000人、糸魚川市で100人を超えるコロナを出しながら、それらが全て知らないで済む話ですか。大きいところの経済は動いてはいきました。けど、そこに泣く小さな企業もある。小さな経営者もいる。弱者の上に立つ制度なんて、私はナンセンスだと思う。しっかり弱者は救済すべきだ。国がやらないのなら糸魚川市でやってほしいとつくづく思います。

時間ですので、これでやめますが、今回積み残した問題につきましては、9月議会中、あらゆる機会で質問をやっていきたいと思っております。今日なかったからといって、楽にならないように終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時11分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。〔8番 渡辺栄一君登壇〕

○8番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。よろしくお願いいたします。

市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し、活動することで当市の緑の交流都市、さわやか、健やか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、当市における地域おこし協力隊員の高校魅力化コーディネーターについて。

高校魅力化コーディネーターは、総務省の外部人材活用制度の一つである「地域おこし協力隊」制度を活用したものと理解していますが、7月には2人目が任用され、その取組について伺います。

(1) 高校の探究学習への授業支援とは、具体的にどのような内容のものなのか。

(2) 自習スペースの管理運営とは、どのようなものなのか。

(3) 県立高等学校3校のそれぞれの課題は何だと捉えているか。

(4) 人材投入後、何をもって成果が出ていると判断していくのか。

(5) 任期終了後の隊員の再就職口は決まっているのか。

2、当市のにぎわいの拠点施設「駅北子育て支援施設」計画について。

8月末で駅北子育て支援施設について、それぞれ各地区の懇談（3巡目）等が終了しました。今後のスケジュール等について伺います。

(1) 子育て支援施設での主な悩み相談とは、どのようなものがあるのか。

(2) 当施設が糸魚川市にとって、どのようなメリット・効果（インパクト）が期待できるのか。

(3) 人口減少が著しい当市にとって、対象年齢等を限定した事業そのものが拡大し過ぎている